

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年 3月 4日

学校法人新渡戸文化学園

新渡戸文化子ども園（幼稚園）

1. 本園の教育目標

「自律型学習者を育てる」という学園目標のもと、自己肯定感を育み、さらに自分の考えを持ち、他者と協力して生きるための基礎を養うことを目指した保育・教育をおこなう。

丈夫で元気な子、生き生きと興味を持つ子、工夫して考える子

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ① 自律型学習者育成のためのプロジェクト保育の充実を図る
- ② 教育の質向上のために、教職員の園内・園外研修の充実を図り、学びの共有と実践に努める
- ③ 読書習慣を身につける取組として、玄関エリアの図書コーナーの充実、貸出図書を開始する
- ④ 給食だけでなく、野菜の栽培や収穫体験、季節の食材への興味・関心を高める、調理活動やコンポスの活動等を通じた総合的な食育に取り組む

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
①	プロジェクト保育の充実	B	年少組では、子どもが興味をもったイチゴを取り上げ、イチゴミルクシャーベット作りを実施。収穫後のイチゴの株分けや水やりなども行った。身近な食材への関心を高め、食の循環まで目を向ける機会を設けることができた。
②	教職員の研修充実・学びの実践	B	他学年の保育のやり方や、他の先生方の年齢に合わせた子どもたちへの向き合い方から自分自身の保育の質を見直す機会となった。取り入れられることを実践する機会もできた。
③	図書コーナー充実・貸出図書開始	B	お迎えの時に読んでから帰るご家庭も多く見られ、良いコミュニケーションを取れる時間になっているように見える。日中クラスで遊びにいけるスペースとなった。
④	総合的な食育活動	B	プロジェクト保育での食育の取り組みや、デイリー・スペシャルアフタープログラムなどで、食や食材、環境への関心を高める活動ができています。

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	4つの評価項目について、日々の保育の中で重点的に取り組み、成果が上が り、子ども達だけでなく教員の成長が見られた。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
①	異年齢交流	他学年との交流の場を増やしていきたい。他学年も一緒に主活動をする日、外に遊びに行く日など日常的に関わりを持ちたい。
②	研修	プロジェクト保育について、個別の研修を増やして学びを深め、担任がそれぞれのプロジェクトを並行して行えるような環境があると良い。若い先生が意見を出し、伝える場があると良い。リーダーだけではなく色々な先生の意見を聞き、学びの機会を提供したい。
③	保育の安全	あらゆる場面で万が一の事態が起きた時の対処方法(危機管理)を今以上に知り、実践できるようにしておきたい。

6. 学校関係者評価委員会の評価

報告内容に、相違ありません。園の取組やP保育を通じて、園児の成長や保護者会のコミュニティの活性化に充実を感じます。取り組みの継続と発展を希望しています。

「今後取り組む課題」については、保護者の目線では感じる事がなかった点だが、どれも重要であり、次年度の取り組みに期待しています。